

# 聖化

'94.4.28

日本聖化交友会機関誌

No. 17

## 聖化交友会の果たす使命

日本宣教会 代田教会牧師 相田 望



「わたしが聖であるから、あなたがたも聖でなければならぬ。」

(1ペテロ一・16)

「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。」

(1テサロニケ 四・3)

聖書の中から私たちの目に入ってくる言葉の多くは、色々な表現をもつて書き記されていますが、この「聖」ということでありましょう。主によって贖われた者が持つ願い、それは「聖になりたい」という願いです。間違っても「醜悪な人間になりたい」と願って、クリスチャンになる人はいないでしょう。

贖われた者すべてが願い求めている「聖潔」。その聖潔については、カソリックからプロテスタントの聖潔を説く教会に至るまで、十指に余るほどの聖潔があると聞きます。

今は超教派の聖会に於て、また各教会の聖別会に於て、或いは書物によって「聖潔」について多くのことが解き明かされています。しかし、一人一人のクリスチャンに、その聖潔の具体的な姿が正しく把握されているかという点、必ずしもそうとは言えません。十指に余るほどの聖潔があるという事は、一面、聖潔は非常に漠然としてそのイメージは個々の中でその人の気質や性格に影響されて描かれてしまいがちであるのではないのでしょうか。

例えば完全主義的な人は「聖潔」と聞くと、一点の染みがあってもならないのだと思ひ込んで絶えず自分を責め続け、謙遜のようではありませんが、喜びのない信仰生活を送るようになってしまいます。その反対に楽天的な人は幅広く「聖潔」を捕ら

えて、完全主義者から見れば考えられないような、大雑把な信仰生活を安心して送るでしょう。

正に十人十色の「聖潔」の神学があり、十人十色の「聖潔」の生活があるように思います。そうした中で、いずれが正しい聖潔の生涯であるかの選択に、苦慮している人も少なくありません。皆が求めている「聖潔」であるにもかかわらず、多くの人が迷っています。そのような中で、聖化交友会の果たすべき使命は大であると言えましょう。

「主が群衆に語られたとき、群衆はその教えに驚いた。イエスが、律法学者たちのようにはなく権威ある者のように教えられたからである」とあります。人々が不必要な悩みや迷いから解放されるべく正しい聖潔の宣証を心から祈るものであります。

# 聖会Ⅰ『ホーリネスの約束』

◆ G・コツカル博士

	集会名	出席数	席上献金	予約献金	予約者	合計額
10月18日	セミナーⅠ レセプション	274 28 288				
	聖会Ⅰ セミナーⅡ	408 247	336,919 182,091	1,356,200 95,000	192 21	1,693,119 277,091
10月19日	教師交歓会Ⅱ 講演	60 359				
	神学生交歓会	190				
	聖会Ⅱ	472	440,599	163,000	34	603,599
	JHA女性大会	268	275,059	990,000	136	1,265,059
	大会後献金		2,300	71,000	6	73,300
	献身表明者 新入会	20 5				
	合計		1,236,968	2,675,200	389	3,912,168

## 報告

れました。新約学の専門のガレス  
夜には472名もの過去最高の出席  
ジの概要を示しておきます。

今晚のシエルホン先生のお証詞の中で大切な点は、先生が主に「はい、主よ。従います」と言われたことです。私たちが主が言われることには何でも「はい、主よ。従います」と言わせていただきたいと思います。

今晚の主題は「ホーリネスの約束」です。聖書は神の約束で満ちていますが、今晚は、神が私たちが聖くしてくださいとの実にすばらしい約束について語らせていただきます。三位一体の神の各御人格との関係からこの約束を見てゆきましょう。

### 1 父なる神によってなされた約束

主イエスは、聖霊が来られることを「父の約束」と言われました（ルカ二四49）。聖霊が来られるとき、私たちは聖くされます。旧約においてもこのホーリネスの約束を見ることができま

と約束してくださいました（ヨエル二28、29）。さらに、神は私たちの心にご自身の律法を置くと言われました（エレミヤ三一31、34）。パプテスマのヨハネは、主イエスが聖霊と火とのパプテスマをお授けになる、と言ってこの約束を繰り返して語りました。主イエスご自身も、弟子たちに父の約束を待つようにと語られて、この約束が確かにあることを示されました。

この約束をしておられるのが父なる神であることには、二つの重要な真理があります。第一に、父の約束であるからには、それは非常に偉大な約束であるということ。第二に、それは必ず実現する確かな約束であるということ。この約束を履行する力のある方は他にいません。神のみが私たちに聖い心を与え、私たちが罪に勝利して歩めるようにしてください。

### 2 御子によって履行された約束

神は約束されただけでなく、それを実行してくださいました。すなわち、御子イエス・キリストを救い主として世に遣わされ

ました。御子は喜んで御父に服従されました。ここにさらに二つの真理を見ることが出来ます。第一は、この約束が、神にと

って非常に大きな代価を伴うものであったということです。神は、約束を果たすためにどれだけの代価が必要かを十分ご承知の上で約束されたのです。神は、実にご自分の御子をお与えになりました。神はこれ以上与えるものは何も持っておられませんでした。さらに神は、御子を非常に屈辱的な形でお遣わしになりました。御子は人となられ、きわめて質素な生活をされました。そして恐ろしい十字架の死を遂げられました。十字架は、苦痛だけでなく、恥辱を意味するものです。しかし、約束を履行されるために御子はそれを徹底的に味わわれたのです。

第二の真理は、私たちがいかにこの約束を必要としているかということ。私たちがいかに、主イエスがこれほどまでしてくださいましたことを思うとき、私たちの罪深さを思い知らされます。十字架は私たちの心の内側をさらけ出します。それによ

って、私たちがどれほど聖くされることを必要としているかを私たちは知るので。

### 3 御霊によって受ける約束

御子の死と復活によって、私たちの罪は赦され、聖霊が与えられるのです。主イエスご自身が聖霊と潔める火としてパプテスマを授ける方です。聖霊が私たちの心に入られると私たちの心を罪から潔めてくださいます。苦々しさや妬みや憎しみといった悪を取り除いてくださり、ガラテヤ五章にある御霊の実を与えてくださるのです。今やホーリネスの約束は聖霊によって私たちすべてに実現可能なものになったのです。

私たちがなすべきことは、私たちのすべてを生きた供え物として神にささげることです（ロマ二二）。そのとき、神はそれを受け入れ、私たちが聖い者と変えてくださいます。

今晚、私たちがすべてがこの約束を与えてくださった神に対して「はい、主よ。従います。」と答えたいと思います。

(文責・林 正弘)

# 第8回聖化大会(東京)

昨年10月18日(月)~19日(火)、東京における第8回聖化大会が淀橋教会に於て開催・コツカリル博士を主講師として、恵みあふれる集会となりました。特に聖会員者が与えられ、感謝でした。別表の通り教勢、財勢を報告し、下記に聖会メッ

## 聖会II『きよめの祈り』(詩篇51篇)

◆G・コツカリル博士

きよめの祈り、これは詩篇五一篇の主題です。ダビデは罪に陥ってしまった自分自身の心の醜さを感じ、心をきよめてくださいと祈りました。これこそ、心の純潔を求めた人々にとって模範的な祈りです。

### 1 罪を認める

① 罪を認める  
ダビデは「私こそ責められるべき者である」と罪を認め告白しました。ホーリネスは、私自身が罪を告白するところから始まります。背きの罪、咎と訳されている言葉は背き、叛逆を意味しています。罪とは意識的に神から離れることです。

② 罪の深刻さを認める  
私の罪はいつまでも私の前にあると言う表現は、ただ悲しい思いがすると言う程度のものでありません。ダビデは罪の深刻さを感じました。それは、どうしても彼の心からこれを拭う事ができませんでした。神の認罪を与える力によって彼は骨の髄まで砕かれました。これは、神に対する罪の告白です。

③ 罪の深さを知る  
この罪を犯す事によって、彼は自分の心の一番奥底にあるものが何であるかを知りました。罪は彼の人格の一部となり彼の内にねじ曲げられて存在していたのです。彼はこの罪から逃れるために自分を変えられなければならないと感じ、砕かれた、悔いた心を持ちました。しかし、どんなに罪深い事を知ったとしてもそこに救いがないとしたら何という悲しい事でしょう。私たちが罪深さを感じる時、サタンは私たちが絶望へと追い返もうとします。しかし、ダビデは罪に対する解決の道があることを知っていました。

2 神に対する確信  
神の絶える事のない良善に対する信頼です。「私の救いの神よ」との呼びかけは、神が自分の心の中にある罪深さを処置してくださる絶える事のない愛の方であり、また偉大な憐みの神である事に対する信頼であり、神は約束を必ず守ってくださいという確信です。今日私たちは、十字架の上に示された神の絶える事のない愛を通して神の約束を

見る事ができるのです。憐み、これは、強い感情を表す言葉です。ダビデは罪の只中にありながら神の恵みを確信していたのです。

### 3 助けを求めての叫び

ダビデは、神様どうぞ私を助けてください、新しい聖い心を造ってくださいと叫びました。それは、彼の心からの叫びでした。神だけがその事を成してくださるということを知っていました。ですから、徹底的に罪を除いてくださいと叫んだのです。

① 消し去ってくださいと祈っています。神が消し去る時、神はそれを記憶から拭い去るとおっしゃってくださいなのです。

② 洗ってください。私の罪を洗い流してくださいと祈ったのです。これは、布を洗うときに用いられ、叩いて灰汁をだすという意味です。ダビデは私の罪を徹底的に洗ってください、外側だけではなく内側から洗ってくださいと祈っています。

③ きよめてくださいと祈っています。私を罪のない者にしてくださいと訳す事ができます。

④ 罪からあなたの御顔を背け

てくださいと祈っています。罪を徹底的に拒絶してください、あなたも存在しなかったかのごとく扱ってくださいるようにとの祈りです。私の内に聖い心を造ってください。この言葉は創世記で神が天地を創造されたときに用いられている言葉と同じです。私たちの内に新しい心が造られるというのは神の御業なのです。これは新約聖書において、人がキリストに在るとき新しく造られた者であるという考え方と非常に近いものです。

### 4 神の奉仕のための全的献身

ダビデは、きよい心を造りゆるがない霊を与え神の御声に従わせてくださいと祈りました。神の臨在を何時でも十分に感じ、神の臨在が自分の生涯に満ちているようにその回復を求めました。救いの喜びをもう一度回復してください。そしてあなたを賛美させてください。他の人々にあなたを伝えさせてください。これこそ彼の献身の祈りなのです。神が十分な喜びを満たすために招いてくださる大切な道がこの祈りなのです。

(文責・石田 敏則)

第七回関東聖化交友会栃木ブロック聖化大会は、本年三月五日(土)の午後七時より宇都宮コンセーレ中ホールで開催されました。ホールとしては、これまでの中で種々の点で、特に音響効果の面で最善の集会場ではなかったかと思われまます。

今回の講師は、日本イエスキリスト教団の明石人丸教会主任牧師の金井由信先生をお招きし、コリント第一の手紙一章一八―二五節のテキストより「十字架の奥義」とのテーマで説教をとりついで下さいました。塩谷キリスト教会の辛島道也師の司会が始まり、宇都宮ホーリス教会の藤田光一師の祈禱、栃木ホーリス教会の杉本俊二師のご指導で聖歌隊(今回はイムマヌエル宇都宮教会聖歌隊)の讃美と杉本師の独唱と、説教の前より整えていただきました。

金井由信先生の説教は、先生ご自身が歩いてこられた教会の中より、日曜学校の生徒、青少年に対する教育の素晴らしさを教えて下さり、文字通り「十字架の奥義」から罪の悔い改めを会衆一同に最重要として語って

下さいました。多くの会衆はこの迫りに感動して、立ち上がることを決断しました。人数も一〇二名の方々が満ち、素晴らし聖会(盛会)であったことを心より感謝しつつ、全国の同信の皆様方にお知らせいたします。引き続き栃木ブロックの発展をご加算していただきたいと願うものです。

紙面をお借りして御奉仕下さった金井由信先生に感謝を申し上げ、全国の聖化大会のためにも我らも祈りの御用に励まねばと心を熱くしています。

尚、栃木ブロックの筆者も、この三月末をもって四年間もたせていただいた責務を後任に委ねることになりました。後任の山田隆先生(イムマヌエル宇都宮教会)のもとに、更に全力を尽くして協力してまいる所存です。この四年間、ご加算下さった全国のJHAの先生方に対しても厚く御礼を申し上げます。心から有難うございました。

(報告・山田 彰)

聖書が語る「きよめ」を宣証しつつ、九州聖化交友会の活動も四年を経過しました。例年、講師の先生方は聖書から諄々と「きよめ」は何を意味するかをお語りくださり、地味ではあります。回を重ねる毎に充実してきました。△後とも聖書の「きよめ」を宣証し続ける大会であるようにと願う次第です。

さて、九三年の第四回九州聖化大会を十一月十七日から十八日にかけて、日本ホーリス教団委員長、坂戸教会牧師村上宣道師とイムマヌエル綜合伝道団教務局長、船橋教会牧師竿代忠一師を講師に、日本ナザレン教団熊本教会で開催しました。

第一日目の聖会は村上宣道師によって、テサロニケ人への第一の手紙五章二三・二四節より「全き聖化」を、二日目の聖会は竿代忠一師がガラテヤ人への手紙五章一六―二六節より「御霊による生活」と題してお語り下さいました。

婦人大会は二日目の午前に開かれ、村上宣道師がテサロニケ第一の手紙五章二―二四節より「喜び、祈り、感謝」を主題

にお語り下さいました。二日目の午後のセミナーでは竿代忠一師がマタイの福音書五章四八節、二二章三四―四〇節から「キリスト者の完全」を、ご準備くださいましたプリントで、ご講演くださいました。

この度は四年目ごとに開催する総会の年でもありましたので、セミナーの前に第二回総会を開きこれまでの活動報告を承認し、今後の活動を決め、役員を選出しました。

各教会には九州各地から牧師・信徒の方々が参集し、夜の大会は百名を越えていました。会を重ねる毎に充実し、聖化交友会の「きよめ」の宣証の目的を果たすことができ、ご聖霊の御導きに感謝しています。

九四年度の第五回大会は講師に日本聖化交友会会長の本田弘慈師と日本ホーリス教団八王子教会牧師、東京聖書学院教授松木祐三師をお迎えし、十一月十六・十七日に、日本ナザレン教団熊本教会において開催いたします。聖書のきよめが高らかに鳴り響く大会でありますよう、お祈りください。(報告・國重雅治)

●第9回聖化大会ごあんない

- ↑日時・1994年10月17日(月)～18日(火)
- ↑会場・イムマヌエル主都中央教会
- ↑主講師・前バサディナ第一ナザレン教会 牧師 アール・リー先生